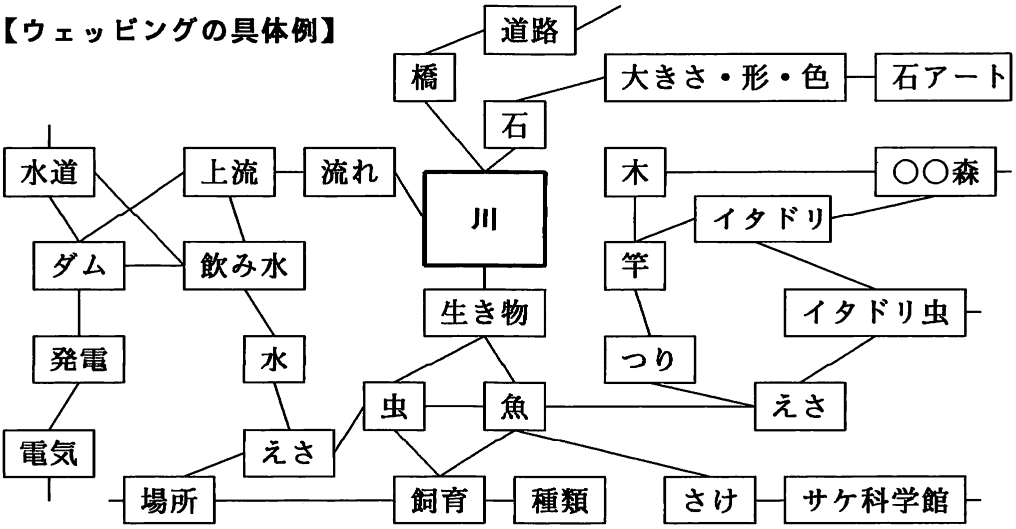
21．ウェッビング法

「総合的な学習」，特にテーマ研究型の実践では話題になることが多いでしょう。１つのテーマからそれに関連する課題を想定するときには，その関連を含めて構造的な捉えが必要です。

ウェッビング法とは

もともと，ウェッブ，ウェッビングとは，“蜘蛛の巣を張る”という意味。ＨＰアドレスにつくｗｗｗというのもその略である。拡散型の学習の教材研究に適した手法であり，テーマを中心に書き，そのテーマから生じると予想される活動や内容を線で結びながら外へ外へと広げていく。構造化されたところは蜘蛛の巣のようになる。テーマ学習の地図のようなものである。

――実践するにあたって――

プログラム学習などで紹介されることが多いのですが，「総合的な学習」においては，むしろ，支援者が作って備えるのではなく，テーマを共通理解したところから子供と共に創っていきたいものです。高学年ならば，それが可能でしょうし，課題をつかむにも助けとなります。また，自分の今取り組んでいる課題やその追求の成果がどこと結びつき，全体像の中のどこに位置付くかを自覚しながら学習を進められるというよさが生じるでしょう。

【ウェッビングの具体例】